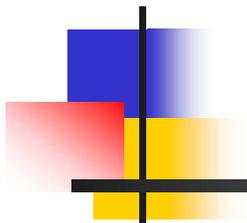
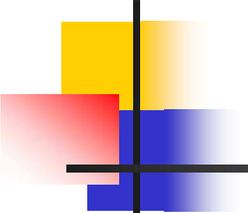


次期教育振興基本計画 の策定に向けて(提案)



大森 不二雄

2016年5月24日
大阪市総合教育会議



本日の提案の流れ

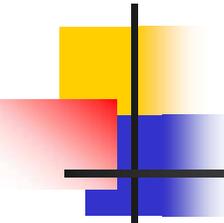
- 教育行政の最重要目標
- 桜宮高校の事案の教訓
- 従来型の教育行政・学校運営の問題点
- 総合教育会議に求められるもの
- 現行計画の実施を踏まえた課題認識
- 次期計画と現行計画の関係
- 次期計画の骨格に関する提案
- 最重要目標のためのシステム・デザイン

教育行政の最重要目標

～見失ってはならないもの～

子ども・保護者・市民の学校教育に対する願いに応えるべき、教育行政の最重要目標は、それほど複雑ではない。次の2点に要約できよう。

- いじめや暴力を許さない安全・安心な学校で
- 学力を向上させる



桜宮高校の事案の教訓

～ 教育行政・学校運営の閉鎖性 ～

「学校内において、体罰等が発生しても、これを受けた生徒及びその保護者が異を唱えなければ、当該教員が生徒及びその保護者に対して謝罪をしてその理解を得ることで処理され、管理職である校長及び教頭の知るところとならず、また、管理職がこれを知ったとしても、管理職がこれを教員に対する人事権を有する教育委員会に対して報告せず、さらには、指導部に対して報告されても、教務部に対して報告されずに処理されることにより、結局、当該教員が人事権を有する教育委員会から懲戒処分や注意等を受けることなく、せいぜい人事権を有していない学校管理職による注意を受けるに留まり、最終的には、当該体罰等は顕在化しない。」

出典： 外部監察チーム報告書(平成25年4月30日)

(桜宮高等学校の事案の調査のため、大阪市が弁護士に委嘱)

従来型の教育行政・学校運営の 問題点 ～ マネジメント不在～

- 一人ひとりの頑張りはあるけれども、その場その時の対応に追われるばかり
- 去年に比べて何をどう改善するのかという、改善・変革の発想 = 課題認識が欠けている
- トップが方向性とビジョンを示すことで、教育行政・学校運営の在り方を変えていかなければならない
……総合教育会議の役割

総合教育会議に求められるもの ～「戦略」を明示する～

- 組織のトップには、「戦略的」(strategic)と「運営的」(operational)の両方の役割がある。
- 「戦略経営」においては、現状と課題を踏まえ、改善すべき問題点や長所として伸ばすべき点を明確化し、一定期間(例:来年度、次期計画期間)の間に何をどこまで変えるという目標設定と、目標を実現する手段としての取組内容を見える化。
- これは「変革のマネジメント」(チェンジ・マネジメント)。大阪を含め、教育界には、こうした発想が乏しかったと思う。こういう子どもに育てほしいといったお題目はあっても、実現する道筋と実現しつつあるかどうかをチェックするという発想が弱かった。
- 総合教育会議は、戦略策定の場。

現行計画の実施を踏まえた 課題認識 ～ 現場への浸透 ～

- 決定・導入したはずの改革は、はたして学校現場に浸透しているか？
- たとえば次の施策は、現場にどれくらい浸透し、実質的に機能しているか？
 - ー 体罰・暴力行為を許さない学校づくりの指針
 - ー いじめ対策基本方針
 - ー 学力向上の目標設定と組織的取組

次期計画と現行計画の関係 ～ 改革の堅持と現場への浸透 ～

- 5つの改革(カリキュラム、グローバル化、マネジメント、ガバナンス、学校サポート)によって構築した大阪市の教育制度インフラをしっかりと堅持し、学校現場への改革の浸透を図ることが今後の課題。
- このため、次期計画では、現行計画下で構築した制度インフラの上に、子どもの学力や成長に直接的な効果の見込める施策、いわば「じかに効く政策」を目指して、教育活動や学校生活に直接働きかける具体策に力点を置くことが肝要。

次期計画の骨格に関する提案 ～ 諸施策を二大目標へリンク～

- 「いじめや暴力を許さない安全・安心な学校」及び「学力を向上させる学校」を最重要目標とする。
- これら二大目標に向けて、様々な改革を組み合わせる。
- 二大目標の達成のための諸施策の連結(システム)を設計(デザイン)する。
- 二大目標に向けた第一歩は幼児教育。6歳からでは遅い。義務教育と切れ目なく繋ぐ。

最重要目標のためのシステム・デザイン ～ 子ども・教職員・学校園のカルテ～

- 既に導入済みの施策や取り組みつつある施策をしっかりと連結して体系化(システム化)する具体策、かつ教育現場にじかに効く具体策を設計(デザイン)することが大切。
- 一案として、次の3階層の「カルテ」(仮称)の導入を提案したい。
 - 子どもの「学習・成長カルテ」(仮称) (幼児から児童・生徒へ切れ目なく)
 - 教職員の「人材育成カルテ」(仮称)
 - 各学校園の「学校園カルテ」(仮称)
- 各カルテは、エビデンスとしての量的データと指導・支援に活かす質的データで構成し、これら3階層のデータを連動させる。データの選定においては、「安全・安心」と「学力」を最重視する。エビデンスに基づいて、効果的に指導・支援。
- これにより、小学校3年生以上の全市共通テストを含むカリキュラム改革、教職員人事給与制度改革を含むマネジメント改革、ガバナンス改革、学校サポート改革をリンクさせ、現場への改革の浸透と子どもたちのための効き目を確保。